

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年3月31日				
事業所名		放課後等デイサービスNEST II				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		規準を厳守している。 状況に応じて外活動など工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		適切な人員配置のもと行われている。 適切ではあるが増やしていきたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく 構造化された環境になっているか。 また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	3階に事業所がありエレベーターがない。 3階の所在地の為完全バリアフリー ではない 手すりを取り付けている。 導線に危険な物を置かないように配慮している。	事業所が3階ともあり、バリアフリーには課題があるが、個別課題の際には、個室やパーテーションなどを利用して、刺激を軽減し、集中しやすい環境設定等行っている。また、タイマー・イラスト等活用し、視覚提示にて見通しや切り替えがスムーズに行えるよう配慮し、支援をおこなっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清潔を保てるよう整えている。 毎日の清掃、消毒の徹底。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウンが必要な場合には、別室を使用して活動を行っている。 パーテーションを配置している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		ミーティングで取り組んでいる。 定期的にミーティングを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ホームページで公表している。 アンケートや面談、日頃のやり取りから保護者の意向を把握し業務改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の活動ミーティングで行っている 定期的にミーティングを行い、意見交換をしている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者は入っていない	第三者による外部評価を検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月研修があり、学ぶ機会がある 研修に参加している 社内での研修や外部の研修を報告書にまとめて振り返りを行なっている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		プログラムミーティングを行い、様々な意見をもとに作成して配布している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		面談で細やかな変化や希望をヒアリングしている 定期的に面談を行い、こどもや保護者の意向を汲み取り作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ミーティングで課題の共有及び話し合いをしている。 定期的にミーティングを行い、意見を出し合い擦り合わせをすることで共通理解をしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ミーティングで共有し、日々の記録にも反映している。 作成されたものを共有して、共通理解のもと支援を行なっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化された評価を使用して、特性把握に努めている。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援計画に盛り込んでいる。 具体的かつ分かりやすい言葉で見やすいように作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月のプログラムミーティング 利用者の特性や日々の状況において各指導員より工夫がなされている 定期的にプログラムミーティングを行なっている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		カレンダーにおいて毎月取り組み、検討会議を行っています 曜日が固定化しないようにしたり、同じプログラムでも内容を変えて行なっている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		専門支援の観点からも取り組みがなされている 1人1人の課題に合わせて支援を行なっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動前に日々リーダー制を用いてミーティングしている 1日の流れや気をつけること、担当を決めて支援を行なっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終了後に打ち合わせできない日もある。 各自共有することなどあれば報告している 打ち合わせできない日は変化を送迎終了後に引き続き等情報共有をしている 共有事項があれば話し合いをしたり記録をもとに共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		モニタリングで振り返りをしている 具体的かつ誰か見ても読みやすい文章になるように心がけている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		ミーティングで取り組んでいる。 定期的にミーティングを行い、意見交換をしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもの視点を大事に取り組んでいる。 選択肢を作ることで自己選択や自己決定ができるように心がけている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援専門員を交え行っている。 情報を把握して体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		大きな事案については保護者に提案しケース会議を行う事例もある プリントでの共有や電話、メールなどで情報共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者よりヒアリングしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		療育の会で児童発達支援センターの方から研修や助言を受ける機会を設けている。	

連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園などで地域の子どもたちと関わることもあるが、児童クラブや児童館との交流はなくイベントなどに参加をして交流している。地域の公園や活動場所に行き関わる機会を作っている。外活動のときに一緒に交流することもある。	積極的に外へ出掛け交流していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		適宜児童発達支援管理責任者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎や面談、電話など。保護者と密に連携を図っている。送迎時やノートでのやり取りで密にコミュニケーションを取り、共通理解を持って支援を行なっている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		面談や送迎時など保護者都合に合わせて助言している。	家族等の参加できる研修の実施はできていないので、開催を検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や更新時など情報提供や情報開示をしている。契約時に説明を行なっている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		児童においては活動や余暇時間にヒアリングしている。面談などの話し合いの中で確認を行なっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		直接児童発達支援管理責任者が自宅に行き説明を執り行なっています丁寧な説明を心がけている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		いつでも希望に応じる旨を各保護者に伝えている面談を通して行なっている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	昨今の感染症を加味して現在は集団で集まる保護者会は行っていない現状なかなかできていないが取り組んでいきたい。	保護者同士やきょうだい同志で交流する機会を設けることができていないため、保護者や利用児童の意見を聞きながら検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		担当者への相談体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		Instagram、ホームページメールやSNSで発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		日々の業務で遵守している第三者の確認を行なっている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		障害特性など個別の支援にも取り組んでいる。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現在は行っていない	見学可能時期などを広報し地域の方にも見学を行ってもらえるよう検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		適宜見直し読み合わせをしているマニュアルを見える化している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		担当者を設けて行っていますプログラムに取り入れている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者よりヒアリングし、事業所ないでの情報共有に努めている保護者からの情報をもとに共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		対象児童がいた場合指示のもと対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		施設内研修で行っている。	

対 応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		情報公開している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ミーティングで振り返りをしている。 ミーティング時に事案を共有して、再発防止に向けた意見交換を行なっている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		施設内外の研修をしている。 社内研修や外部の研修に参加して、擦り合わせを行なっている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		対象児童が現在いない。	